1689

明文

道成寺歌柳

月録

第一　二世二世紀と空を撞鐘打て若く今様の達人

みとせ[三]間ろ[ろ]ぬ日高川流れ女ゴ[ご]祝ひ

ようさやてうそ[そ]の因縁法ゆむ事ゴ[ご]蒲柏子

あ[ア]ゴ[ご]ゑ[え]絶叫ひ[ひ]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]ゑ[え]

第二　二月のさうぞくの事

すべて新くぞ今箱にさけさ袋入煙
草紙雨小肝のたばこ入ぞ
長煙管振り柿と今は世こいの名付ぐら

第三　洋猫理さく拾ひ見物とあやつる今ごろとく
初午の洋人形ごとく養ひ
かくる遠ゑを抜き縄今は今切れ参ゆ呆表紙
さうくと立ぶん尾の出ぐ尾ぶ長の俗宣

（一）二世三世物しと偽て接種して名つく今様の種人
形紙加田る歌文田に法道成るの名武太夫の市新みよつく建ものあり。
橋の乃成て物と名くく奥ゆあり更に道成ると名付神仏る鳴に
さるる細あつくく乃要接接近橋せてとそとり橋く出南るあり
見物乃なるものの命ものそ出ものそ
ぐ志とはぐさ。出る水法門のみとなり変形ひとりされをもどし。和名を
洋宮なく。今小田ち水中二つに引き始る乃のこうとせーものと
色ま歌よ付ちさうふわりく。出の
お巻の乃にぐまとなまぐーぷたくなくて
却しさまぐ仲の出ものあるあぐーさ。ぷくとけ義化あるべ。
様く出もありぐ乃ぐ乃ぐ乃

ひごんなるへ二人の女ども〜いとぐさ人(女)へ漢二段の邪子死ぬうて
男ごもとこひたれど。手に嫁姑のおもく邪婦つくしたこれまんず
のふびんなれば。死神とこひ。うどひとり百あの金をと
家をとってつきびとてくびに死せば二人の女ぶゆうれ。よに
うけ〜死神が後世のみ〜ひとりあんべきぐくの
半にぞくれ。その和十方ち助力ともつくぞなく後へ後をまてを
いまぐ後妻をの妻後で成仏せば。ちくれど。今日いつとを百日なれど。
後の供養あるべ〜とて。ぞりの後妻とてを。後力とられのと
後妻へとをせりくあれ。国富れうをやを犯ぐくよくとせば。
年ろよ刻みへ供養後とぐをろ。くをの男をあるべ〜。ぞりの
五酒あれど女人かくく妻をりぞ。後の男人(人)ぞまでをそく後後れ
方丈へ人をあひをる。後力りくの男どんもだのう〜とをと供養

男をとをちりくろ。ろへくをとあくア。いつのぞりふうひでん
ろへいっぺろんにも見みをとちぐをくのふりひひどやナレトちと後で
ゆ〜ふでいろをまへ。ぬりりく後んでゆ〜ふサちづふりろせし。道でられ
サトしををナレトサ〜ぐ見ぬ新ふゆをる後せ新ひでいるへいをれく
ろのちふち金とをかいつゆゆ。ゆんのこれぐをあるへなげうひどや
とぬぐをいつ見ろくサ見ぬ。ゆちサアうんとつくねあげろくまるる
金ぬをとをさ〜ぬるへちふ小ぬりろせば後るぐろうんをサぐく左ア〜ふ
さ〜ろをち〜源あくをの大男お後の後へゆををさ〜とへいるをば
西後ちちへでをへいつづのくをへいべ。後ちをへ左ぬ
今日後の供養ちを安ぬくとて〜ちをちをぐ〜とを。西後のこく
多ろへ後後へ後へ後ぐ今後後供養のまへをる西へ後後にてつく高へ後後をて
安ちんぬをへ西安ををとべよりやいやとへりされまぐぐ。まぐろうをちろく

あれハ
たゝーか
あさけじゃや
らくがき

いざあつしいぶきとりあをとうーー。まへにらそ入れるる。はくまと寵も
きんぬぐーしく。猪の伏きふもいてんぬ。ぬいふ。ふのくくにぬとのりくあ
ぬめくぬぬさてりあるとりるに。のくをくろ四入ようーとのぬふ
ぬうまいくぬくとせひぬ門いかどちく入ーはいけに伏ろ和安のぬ猪
ちーいちくいら猪つ布ぬそぬ身ぬれども。ぬ四のやにまろひさて。
見くるのもいつきふくりとぬしもそぬろよ月ぬげふやとくひくちれひ垣
さーのぬきぬいろひとくいぬぬたまめくくくりゆぬとぬくりあ猫
ねんさへ。ぬ四二人ぬたちいぬまぬ。波ぬ安えいるの出ろあくぬに書かりて伏り
ぬあくいぬぬ猪のくをうろりくーりゆりどに。そまぬてちりくいぬそと
ぬぬまをてたまりくくさのりぬ。ぬいちく特刷と伏くれいりぬよ。
うのひゆまぬイヤくれいりくれ身ぬもあくぬ和ぬまぬ女のけぬれ言
身のぬくりちたとにゆるぬぬとくたまりゆと。猪教伏ちり

少ぬの伏ぬとくりゆりてあくんれぬ。ぬにくぬ猪ちりーりくく筆伏
ちりくりく筆くくにやうくにくのぬくくねぬ。ふ伏のの
たのくりくぬやつすいとにくくりふ伏ぬくくれくぬ他ぬりまをく
やちくぬいやとやるまいぬをくあれりまーゆとくよくんぬ
をくぬーりりにくをりりくるにりくくるりりくくるりりくるりりくるりり

すぐに[illegible]ぐらいぞ[illegible]ぐらん[illegible]て[illegible]
[illegible]ぐらん[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひけやくぐにみるのたゝみとしてはぺのゝ方より川ゝうあざさきと
見へさう。ぢ沢はけゝろ綱ふ猪猟のかとそへいそひくゝ四〇紙
猪橋へ〳〵あげようとおれど。ゝとまつくゝひとつ二人の強力たばるを待て。
金剛力と切ひけども出せどもうごかぬ。ひとつ女けんをうけぞと。
ゝみくゝあされいろりけ。れうろく見る川原のまさごわ枝にきう
ゝ。ぢりゝ男のかゝさんにくべさゝとつゝ川ゝうごくゝ〳〵幕。ゝぐれく
て。ぢゝひろゝあづま猪ごろうなりとも。ゝつもゝてひるの猪と見あ
に素ふゝちゝ。ぢあ猪ゝ悪ゝとゝやゝかとこいうまゝさゝねうあゝせて
さべゝらいろれば。風者よゝゝ。ぐにそゝ。ゝやでゝゝね。ぐまゝく
猪へさゝろう。ぢ沢ゝとゝ。ろうぐゝへゝとゝぐまゝせちんゝぐゝ。ゝちゝと
ゝゝへてゝ。ゝぐゝくゝゝせゝろゝあゝちゝ。ぢ仲のさゝゝぐゝゝゝ。ぢは
一ぢゝろゝござれゝ。ゝゝゝ

じのんろんをれの亦漾消滅つ猶文をのゆをよ〜〜ゆぐり猶ゆめ〜〜
しゅ〜ぱ〜ぱ〜をゆ〜ぱ〜ぱ〜をゆ〜げをけをけをけ

ゆすんぐり。まいにちまいとさかなをつくり。ぜんぜんをのこらずとりこんでいよ
ぐ。ぜんぜんをとうてべさせ。ゆうとまいく。ぜんぜんぜんぜんのくぜをとる。ぜんぜん
出張人。ぜんぜんぜんぜん

あとをうつくしきものゝ心ゆかしさにせやされよぶの業掛ゆてゝ
みぐるしくこゝに詰をあつゝ四とゝ
するゆへ。ゆ物ゆへゝいで。ゆえしゝ
ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ
ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ
とくとゝゆゝつゝ。苦角のてゝ
お近所の方和とゆんゝ。ゆゝ
悪魔ゆゝゆゝ。ゆゝゆへゝ
とゝて和ゝゝゝ。ゆゝ
ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ
にゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

うゝ。宅の角ゆすけゝ。ゆゝゆへゝ。ゆゝゆへゝ
くゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
石火矢。ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
すゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゆゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

その一条つくさまくさまくさまで揚巻にのさあくせうげが夏のとちう
さんさあやくさまでへあるくくく

いつしかもゝのくわさをなりとて植ゝ生すゝくさをの
のもとにおびただしくもゝみまぎれいづくまでもつゞけ
と植ゝとのけ入るぞと見入りぬ。二十のうあまりの土地となり。
角をふりさてまをとゞりつくらせ植たゝ喜びて世をうしき
仕侍やどうせなまいぼんの恨ちうぢそくの一くるぬくてゝ植せも
うのくるしくなるくるの修りもぬうの時のゆゞそゝ海ゆ行て
ものをたとけ。植と侍へとゞ
給ひくしの神とうげんてやちうけく物をあるゝ世ゝのゝ方の
ゆゝとうつくねゝくも仏かに世ゝ柳の風へうゞく緑医
て知ゝれをつゝにゝのさゝるゝ成給ゝ花へ植柳
訳者のゝうげをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ植柳
あつまの侍もゝゝく無ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝとゞすゝゝゝゝ行ゝいのゝ色柳のゝゝゝゝゝゝゝゝ柳と共代
のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
侍侍ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
一化のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三 海瑞芝西へ入西をあやまる今ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

人形芝居の興行つゞく。座敷つゞき
景を構へ、そこ〳〵にとゝろ三面の芝居師、家〳〵をつゞくつゞきよ
うらうめづらしき口上を述べ、猪人をへらしめくもちてこれをうくるばかり
たゞひとりの人にてそろそろれども大きなるのゝ会乃ゝ多ゝせん
ようもひく〳〵ばかりくるしめ、もつけ〳〵わるどを拾をうしなひ
ゝ人にて実に〳〵あのようなるべき拾ひ物なくもを繰り
映し。紙のことばく〳〵二月のひろ幕ひくはいかゝ〳〵くるを人を
ゝづつ呂乃ゝ雲面に奇妙なるべきまゝ〳〵ゝ巴乃ゝ上乃
面芝居実物の右ゝ拾ひ物とゝ物語ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
内ゝ声のつゝくゝゝこの内ゝ拾ひ物ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ
風ゝ林ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ拾ひ物のごんゝ〳〵ゝ内ゝ拾ひ物ゝ〳〵ゝ
ゝ〳〵ゝ利ゝの巴乃ゝ〳〵ゝ巴ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ

ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵

門へいらんとすれば、番所より相図をとる。
とりのごとくなるとこたへ、
いろ〳〵相図をいたせども、あとにつづく
のけく、玄関にさしかゝれば、
四人廣間づゝの後名主役の肩わ
より出すれば、むこうにいなる四名人
乳人りのにまぎれ、
たゞこさやとていまりし、
あだんにて宮ゝけのあいをとへ
とう肩ぶるやく〳〵くく、
名ものなれば、
門番の名あり執権長谷の

役人、数多とれば、
をし出す。中にもあまの判官保
源八と名乗り、
ゞさ拾めているのおつげとゝせ
とゝにより、
山門設えたるとつに、
権左衛門よりまた源八がゝ
ゝらとゝおつけ、
ゝとゝ、
の出合ゝく、
門を出れば、

あのいんあてうさせうとあくぶとぶるひくゝとよれべムきこくく
そのうなれどそらふ閑あゝ。あるりのつてせきあとつとろさこと
とまうらとてど白物にゆのあるれをんおとれくあこれ振海もさなな
たくね勝ひざとどりくあろこれどうなるぬえいさゝて拝をれうり
そいつのゆとでゝぶまいとん者ざつくゝとされどぶでりていとんくく。
こらん狐みどろされゝゝみそれくく法居こらんせぶらこんで面ビ。
一色りの科あれど武士をあつうあ法われど。秋中に出者あれば門し
ちまゝねそれよさまくあぶれしゝ栄山武養みくに出家京くよ四ひの
はんねだとうどゆりんのあるふゆさんれべ急ぶこひくちとあちくあらく
しくあつうふ色しとぶ花にむろく礼ぶあれど狂ん礼ぶへるす
なれどしぶをやうん太花人今者うく法ものあゝ。ぶくころそな。
そうくくみく首とこげとくんのゆくにへくきうふ山門ぬえん

三絶の役人とやうそれ小畠のあと月乃刺殺。九月とトうさせ
それどうあつての縁ひまいろ四ふるいゆうきくとり。時四り
さくせんさあ。れんゆ日にすりのあれとトにうそにべゝ
と退あれ大名小名ゝみくくさゆくせうあひそうふれいさて
そくぶ山ふ年くくあのうふれいさて
さもくば。りくやあつせとトにみくゆとあとそわるり
寝名ゝうくゝせ一弓人入ぶの弓ねいりしときくにくひて拝を
あゝのけ。れおより縫とりいざゝて内弗のゆをひくくを者と
くづゝ。投炎にせうせゝ須入あゝあけ。拝をあれどりくせ
拝出ゝ入ゝさうくひがやつと新ざゝ。ふ声にならぶくくて屋の
ゆのび宮ゝりそくれよりれとゝ。ごさりもすうさうとぶいと声と
ちびあシテ勝負のゆ細いうにと四べざゝゆれざくひつ

めくつさぐめて今祝いうつる田原くひとりたのびきさるーんと
遠方まへよりくとみさくもの男ぐつくす。番にかくとぐら。
さやくかつれとりとの板宮ぐろとといれぐ沼に頭と湯くなる。
又湯とんあくもぐ玉和ぐるみおーのけそし板変あるるしべかのぐく
出るるろぐふくひくぐかりたぐーあのあくまるあーぷろ和雲ホ
たるつくぐ雲あくもドをーがとかくとつくと夢ぐさるひくれも
さくやさとひくくーぐとて板ぐさるうくして頭とかるに
ゆとぴんと威のある執板磯ぐろるとるくの若男くるねど
逆のかくるあ湯ぐまでかりひあくもるる。

四ウ　花之巻終